

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年5月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200961		
法人名	有限会社 フルハウスカンパニー		
事業所名	グループホーム ひまわり	ユニット名	
所在地	〒316-0001 茨城県日立市諏訪町1-20-18		
自己評価作成日	平成24年12月10日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0870200961-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年1月25日	評価確定日	平成25年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>歴史ある諏訪の閑静な住宅内にあり、地域のお祭りに参加する等、地域の人々やひまわり畑で育った無農薬野菜を収穫するなど、自然との触れ合いを持ち、充実した暮らしを目指しています。 利用者様の笑顔、心の安定を図るべく、ミュージックケアや自彊術の研修を受けたスタッフも対応、たくさんの笑顔があふれています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は街中の木々に囲まれた静かな環境の中にあり、広い敷地の一角にある自家菜園では野菜の栽培が得意な利用者が季節の野菜を栽培しており、収穫した野菜が食卓に上り利用者を喜ばせている。 職員は明るく穏やかに利用者寄り添うとともに、職員同士が連携を図りながら協力し合い、利用者が安心して過ごせるよう支援している。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者が有する能力に応じて、可能な限り自立した日常生活を営むことができるよう支援する」という独自の理念を掲げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、事務所や居間兼食堂に掲示している。 月1回のミーティング時に全職員で理念を唱和して確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域の夏祭りや文化交流会などに、利用者全員で参加し、交流するとともに、地域ボランティアを毎月受け入れ、交流している。	事業所は住宅街にあり、利用者や職員は近隣の住民とも顔馴染みであるため、散歩の際に地域の人々と挨拶を交わしたり、町内会の夏祭りや文化祭に利用者や職員が地域の一員として参加をしている。 町内の独り暮らしの高齢者が頻繁にお茶飲み事業所を訪れているほか、2ヶ月に1回ボランティアが来訪し、利用者と一緒に牛乳パックを利用したお皿などを作って交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に住む独居の高齢者との交流や地域ボランティアの交流会に参加させていただきながら、認知症の方への理解を深め、お互いに共有できる時間を大切に支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市をはじめ、地域の代表の方、民生委員、利用者、家族の参加をいただく運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、サービスの質の向上のための話し合いをしている。	運営推進会議は利用者の代表や家族等の代表、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員等地域住民の代表、認知症家族の会会員、近隣の特別養護老人ホームの介護支援専門員、事業所の代表者、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や利用状況の報告、行事報告をするほか、委員から「避難訓練に参加させてほしい」との提案を受け入れるなど、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員は、市の担当部署を訪問し、事業所の運営や課題などを相談している。また、月1回介護相談員が来所し、介護情報を得ている。	管理者や職員は利用者の要介護認定更新申請手続き等で市を訪問して運営状況を報告するほか、虐待やベッド使用時の事故対策などについて問い合わせをするなど、協力関係づくりに取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現場職員研修を行い、マニュアルをもとに学びあい、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所は身体拘束をしない方針で、年2回ミーティング時に全職員で研修しているが、身体拘束排除マニュアルを作成するまでには至っていない。	利用者の自由な暮らしを支えるために身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、定期的に研修を行って全職員で確認することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、勉強会やマニュアルをもとに高齢者虐待について、知識の向上に努めている。また、利用者の状況確認や職員の言動、行動に注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解、活用するための研修に参加、学びあい、一人ひとりが必要に応じて活用できるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの際には、書面を使用し、十分な説明を行っている。その際、利用者や家族からの質問や疑問に対してはじっくりと話を聞き、説明を行い、理解を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。職員は、利用者や家族等から苦情や意見を聞き、ミーティングで検討するとともに、サービスの質の向上に生かしている。	職員は利用者との何気ない会話や普段の暮らしの中で利用者の意見や要望等を聴き、全職員で共有するとともに運営に反映させている。 家族等からは面会時に意見や要望等を聴くように努めている。 年1回利用者や家族等に無記名のアンケートを実施しており、「遠出して外食したい」との利用者の希望を受け、家族等の参加も得ながら国民宿舎鶴の岬での昼食会を実現している。 市の相談員を通して、利用者の意見や要望等を聴く機会を設け、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、グループホームミーティングに参加し、意見や提案を聞き、運営に反映している。	代表者はミーティング時に職員から意見や提案を聞く機会を設けているほか、職員が話し易い雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、毎月1回職員と面談し、相談や質問を受け付け、職場環境・条件の整備、向上に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員は、内部研修を3ヵ月間受講している。また、外部研修の案内を回覧して、自主的な参加を促している。看護師による研修会を、月に1回開催し、職員の介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市主催の地域密着型サービス事業研修会やケアマネージャー協会主催の研修会に参加し、意見交換するとともに、サービスの質の向上に生かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人、家族との面接時に状況や要望等をよく聞き取り、職員全員が統一したケアができるよう、情報の共有を心がけている。24時間を通して細やかな記録や申し送りをして安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に状況や要望をよく聞き取り、スムーズにサービス利用が進むようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにおいてターミナルケアまでサービスを利用できる今日、巾のある支援・対応を見極め、本人・家族が納得していただけるようコミュニケーションを大切にされた対応に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日々の生活の中で、洋裁や野菜作り、生活の知恵、季節の行事のご馳走作り、昔ながらの味付けなど、多くのことを教えてもらい、利用者とともに学んだり、支えあう関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者の訴えている事を家族に伝えるとともに、協力していただける家族との絆を大切に支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時ホームを訪ねてくる馴染みの方々との面会場所の提供をしている。また、家族や職員とともに外出するなど、「会いたい人」「行きたい場所」は大切にして支援に努めている。	利用者への面会はいつでも自由に受け入れている。 利用者の元の住まいの近所の方が利用者の自宅に連れて行ってくれたり、2ヶ月に1回馴染みの理・美容院が訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「できること」「できないこと」を認め合い、感謝の気持ちを忘れず、言動・行動を通して利用者同士がかわり、支えあえるよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者本人の強い希望で、グループホームより自宅に戻られた方がいます。現在も引き続き、訪問サービス、デイサービスを利用しながら、これまでの関係を大切にして、相談や支援を継続中である。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は生活歴を把握すると共に、日々の生活の中で、利用者の残存機能やどのように暮らしたいのか、思いや医師の把握に努めている。	職員は利用者のフェイスシートから今までの暮らし方を把握するほか、家族等から生活歴を聞き取るなどして意向の把握に努めている。 把握が困難な利用者には表情や態度から判断し、利用者本位に検討しているが、把握した利用者の思いや意向の記録が少ない。	管理者や職員が把握した利用者の思いや意向の全てを記録に残し、全職員で共有することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にできるだけ聞き取るようにしている。利用時の困った状態ではなく、職員の知らない生活歴を知る事で、どのように対応・支援していくか参考にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は本人の生活や言動などにも注意を払い、気づいた点などを個別記録に記入し、引継ぎを行い、情報を共有しながら、本人の現状把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族等から意見を聞くと共に、全職員でカンファレンスを行い、利用者の意向に沿った介護計画を作成している。	介護支援専門員が利用者の観察を毎日欠かさず行うとともに3ヶ月毎にモニタリングを行い、長期計画は6ヶ月毎、短期計画は3ヶ月毎に介護計画を作成している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は本人の生活や言動にも注意を払い、気づいた点などを個別記録に記入し、引き継ぎを行い、情報を共有しながら、ケアの実践を行っている。また、それらをもとに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に沿って、地域ボランティア活動への参加、買物などの支援をしている。また、24時間の医療連携体制を生かして急な往診など、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人がホーム近くの友人を訪ねたり、地域ボランティア活動への参加、映画鑑賞や外食への誘い等、ホームの中だけではない楽しみの持つ支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族等の希望により、主治医を決めている。また、協力医による月2回の往診のほか、看護師による週3回の見守りなど、利用者が適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族等の希望を踏まえ、協力医療機関の医師による訪問診療を月2回受診できるよう支援するとともに、受診結果を家族等に報告し、個人記録簿に記入して全職員で共有している。 歯科や眼科など協力医療機関以外の医療機関を受診する場合は職員が有料で付き添い、結果を家族等に報告するとともに、個人記録簿に記録している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の体調変化や体の観察を行い、気づいた点などを個別記録に記入し、引き継ぎを行い、情報を共有しながら、ケアの実践を行っている。また、それらを看護職員に相談、情報の共有を行い、必要な看護を行えるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医による週1回の往診の際に利用者、ご家族が安心していただけるよう、情報交換や相談を行い、連携を図っている。</p>	/	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>地域の関係者からの意見を聞き、事業所内で方針を検討し、統一したケアができるようにしている。重度化した場合や終末期のあり方について、利用者・家族と話し合いをし、希望に沿ったケアができるように支援している。また、承諾書を作成し、捺印をいただいている。</p>	<p>事業所は過去に看取りを実施した経験があるが、現在は看取りは実施していない。契約時に看取りは行わないことを利用者や家族等に説明し、事業所でできないことを十分に説明のうえ承諾を得ている。</p> <p>利用者が重度化した場合はかかりつけ医の診断により最終的には入院となり、退去になることを説明して同意を得ている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は、看護師による研修会を月に1回受講している。また、外部研修へも参加し、技術の向上に努めている。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。地域の人々の協力体制については、運営推進会議で検討、実施している。</p>	<p>年2回避難訓練を実施し、内1回は消防署立会いの避難訓練を実施している。</p> <p>避難訓練には利用者や職員、民生委員、近隣住民が参加するとともに、役割分担表を作成しているが、避難訓練で明らかになった課題を話し合ったり、実施記録を作成するまでには至っていない。</p> <p>災害時に備えレトルト食品や乾パン、飲料水、救急セット、毛布、石油ストーブ、ソーラー電気スタンド、懐中電灯などを備蓄するとともに、食品は数量や賞味期限を明記した一覧表を作成している。</p>	<p>形だけの避難訓練に終わらせるだけではなく、「何が良かったのか」や「どこに不足が生じていたのか」など、訓練で明らかになった反省点や課題の改善に向けて全職員で話し合い、記録に残して次回の訓練につなげることを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、介護支援する中で、人格を尊重した言葉かけを大切にしている。常に利用者を目上の方として誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	職員は利用者一人ひとりのプライバシーに配慮するとともに、誇りや人格を尊重した対応をしており、トイレ誘導時には利用者の耳元で周囲に聞こえないように声かけをしてさりげなく誘導している。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかるロッカーで厳重に保管している。利用者が使用する紙おむつが居室の見える場所に置いてある。	紙おむつが見えないよう覆いをするなどの工夫をすることを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日常生活の状況を把握し、また、利用者からの話を十分に傾聴できるよう心掛けている。そうした中で、利用者の希望を尊重し、自己決定しながら生活できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、利用者一人ひとりが散歩や縫い物、書道など好きなことをして過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望をもとに洋服を選んだり、髪型を希望のようにアレンジしてみたりしている。また、定期的に床屋が来訪し、散髪を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の残存機能を把握し、一緒に食材を切ったり、盛り付けやあと片づけを担ってもらっている。献立に利用者の嗜好を取り入れるとともに、職員は利用者とともに食卓を囲み、支援しながら食事をしている。	年に1回程度ドライブを兼ねて利用者の希望を取り入れた外食をしている。利用者が事業所の自家菜園で育てた野菜が食卓に上り、野菜作りの話題で盛り上がるなど、楽しく食事をしている。利用者はできる範囲で職員と一緒に簡単な調理をしたり、テーブル拭きや下膳などの役割を担っている。職員は利用者の誕生日や雛祭り、秋の栗ご飯、正月料理など、季節に合った行事食を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の状況を確認し、それぞれの好みなどをとらえ、バランスの良い提供を心掛けている。また、食事量・水分量を記録し、必要量が摂取できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。肺炎や予防のため、毎食後必ず声をかけ、支援、対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状況を確認し、利用者各々の排泄パターンの把握を行う。それらをもとに、トイレへの声掛けなどを行い、自立に向けた支援を行っている。	職員は排泄チェックリストに基づいて利用者に声をかけ、トイレ誘導をしている。職員が時間を見計らってトイレに誘導することにより排泄の失敗が少なくなるなど、おむつの使用量の削減につながるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼らず、冷たい牛乳や食物繊維の多い食材の工夫をしている。帳の動きを促進させる意味から、車椅子の利用者も手引き歩行をしたりと、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は一定の決まりがあるが、その中で本人の希望を聞きながら、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は月曜、水曜、金曜の週3回午後からとなっているが、入浴を拒む利用者の場合は時間を変えたり、別の曜日に入浴ができるよう支援している。 季節毎に菖蒲湯や柚子湯、ばら湯などを取り入れ、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や利用者の希望を取り入れ、居室の環境を整えたり、足浴、湯たんぽを利用したりして、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について、資料や看護師の指導をもとに理解を深め、服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除など、仕事をお手伝い頂く事で、役割を持って活動をしていただいたり、散歩や縫い物、草花の手入れ、書道等好きな事をして過ごせるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩など、一人ひとり希望に沿って戸外に出られるよう支援に努めている。普段は行けないような場所へは、家族と協力しながら、出かけられるよう支援している。	利用者は職員と一緒に日常的に散歩をしているほか、車いす使用の利用者も一緒に近くのスーパーで買い物を楽しんでいる。 年間の外出計画を作成し、利用者が季節毎の外出を楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物など、利用者が自由に使えるよう支援している。管理が難しい方には、職員が管理を行いながら支援している。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に自らが電話したり、手紙のやり取りができるように支援している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、廊下は明るくすると共に、ホールは天窓を設置して、自然の陽光が入るように工夫している。また、和室にはお雛さまを飾ったり、梅の花をいけるなど、季節を感じられるよう工夫している。	居間兼食堂に天窓を設置して陽光を取り入れるとともに、木の梁から吊った照明器具が温かみを演出している。 建物全体が温度管理されており、温度差が少なく過ごし易い環境となっている。 トイレ入り口に対して便器を斜めに設置しており、車いすでも使用可能な十分なスペースを確保するとともに、立ち上がり用の手すりを設置して利用者の安全に配慮している。 風呂場に浴用車いすを設置し、車いすの利用者も安全に入浴ができるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席を決めて、利用者同士で思い思いに話をしたり、趣味を行ったりできる様にしている。また、皆が集まる場所とは違うスペースの提供も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は居室にテレビ、家具、椅子、手作りの品、写真など馴染みの品物を持ち込み、落ち着いて過ごせる場所になっている。	居室にはエアコンや照明器具が備え付けられている。 利用者は入居時にカーテンや整理箆、ベッドを持ち込むほか、使い慣れた置物や絵画、写真などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。 洋裁が得意な利用者が居室にミシンを持ち込んで前掛けを手作りしており、出来上がった前掛けを使用して楽しんだり、居室に置いた籐のケースに大切に収納している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線に合った見やすい位置にわかりやすいように表示をしたりして、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひまわり

作成日 平成25年5月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	利用者の自由な暮らしを支えるために身体拘束はしない方針であり、年2回研修を行っているが、マニュアル作成には至っていない。	利用者の自由な暮らしを支えるために身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、定期的に研修を行って全職員で確認する。	現在マニュアル作成中です。今後も定期的に部会ミーティング時に研修を実施して行きます。	5月中達成を目標に実施中
2	23	利用者のフェイスシートや家族からの聞き取りにより、把握困難な利用者に関してはその表情などから思いや意向を把握しようと努めているが、記録が少ない。	管理者や職員が把握した利用者の思いや意向の全てを記録に残し、全職員で共有する。	職員に対し、記録を常にとることを指導し、徹底して行きます。記録することに慣れることが大切と考えます。	5月中達成を目標に実施中
3	35	避難訓練には利用者や職員、民生委員、近隣住民が参加し役割分担表を作成して訓練をしているが、実施の結果明らかになった課題を話し合ったり、実施記録を作成するには至っていない。	形だけの避難訓練に終わらせるだけでなく、「何が良かったのか」「どこに不足が生じていたのか」など、訓練で明らかになった反省点や課題の改善に向けて全職員で話し合い、記録に残して次の訓練につなげる。	平成24年度の避難訓練は、5月16日、11月10日に実施、その記録は防火管理者記録に残してありますが、グループホームにも記録を残し、次の訓練につなげるよう、改善して行きます。	次回訓練時より実施 (5月予定)
4	36	利用者一人一人のプライバシーには充分配慮し、個人情報施錠できるロッカーに保管している。が、紙おむつは使いやすい様に居室に置いている。	紙おむつが見えないよう覆いをするなどの工夫をする。	家族に今までの対応についてお詫びし、風呂敷などの大きな覆いの用意を依頼しました。	対応済み
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。